

甚風呂別館に看板が掛かりました

甚風呂別館に看板を設置し、来訪者に建物の名前が分かりやすくなりました。
また、展示されている天神飾りは、五色天神のほか約30体増えています。
ぜひ、甚風呂別館にてご覧ください。



湯浅まちなみひなめぐり

今年も下記のとおり開催します。

- ◆期間：令和4年2月11日(祝)(金)～3月12日(土)
- ◆場所：甚風呂、北町ふれあいギャラリー、岡正、立石茶屋、えき蔵観光交流センター
他町内各所
- ◆主催：湯浅伝建地区保存協議会



役場からのお知らせ

旧栖原家住宅工事について

現在実施中の主屋内装等の工事は、資材調達等の影響で工期を1月末までに変更しています。

また、その他敷地内の整備等は、夏頃に終わるように進めています。オープンは、今年の秋頃を目指しています。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いします。

湯浅伝建地区保存協議会

皆様に瓦版をより身近に感じてもらうために、まちなみ瓦版の記事を募集しています！ご意見・ご要望などございましたら、右記のまちなみ瓦版編集委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五
妻木 良三
楠山 吉雄
油谷 太一
竹田 滋子



まちなみ瓦版

- 令和 4年 1月 1日
- 第 60 号
- 発行：湯浅伝建地区保存協議会
- 発行責任者：木下 智之



新年明けまして おめでとうございます



令和2年2月13日に町内の病院で新型コロナウイルスの感染が確認されてから、早や2年が経過しようとしています。この間、皆さまのご努力により町内で感染が広がることもなく、「和歌山は安心ですね」と観光客から羨ましがられることもあります。コロナ禍により、経済的にも苦しい状況が続いているのも現実です。この間、当会ではこの状況を何とかしようと、感染に注意しながら「吊るし飾り12000体プロジェクト」を支援し、新たに「後の雛まつり」を企画いたしました。吊るし飾りは目標の12000体に到達することができたとのこと、来月に開催する「湯浅まちなみひなめぐり」には12000体の吊るし飾りを展示できるようになります。

このプロジェクトは、目標達成と同時に役目を終わるとのことですが、皆さまからご好評いただいている吊るし飾りを継続するべく、新しい組織の立ち上げ準備を進めているところです。

また、湯浅町が修復工事を進めている北鍛冶町の「栖原家」が令和4年中に完成し、公開される予定とのこと。さらに、北町には和歌山県がまちなみの駅事業として駐車場と公衆トイレを整備しており、伝建地区を訪れる方の利便性が向上されます。

今年は、新型コロナウイルスの感染が終息し、明るい1年となることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

湯浅伝建地区保存協議会 会長 木下 智之



文化財防火デー

毎年1月26日は
全国一斉の文化財防火デーです



昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損しました。文化財防火デーは、文化財を火災から守ることの大切さを後世に伝え、防火意識を高めるために制定され、全国で文化財防火運動が行われています。

私たちも日頃の防火対策を徹底し、受け継いだ貴重な文化財である町並みを守りましょう。

第44回 全国町並みゼミ 奈良大会



まちの資産のいかしかた

～なにを、だれが、どのように～

11月12日・13日の2日間に渡って奈良市奈良町で開催された全国町並みゼミ奈良大会に参加してきました。12日の分科会では、第2分科会「建築物（町家の継承の考え方ー暮らしの変化に合わせた取り組みの模索ー）」に参加してきました。

今回の奈良大会のテーマは、まちの資産のいかしかた「なにを、だれが、どのように」となっています。1978年に全国町並みゼミの第1回大会が開かれた当時は古い町並みを守ることが主な議題で、テーマは、町並みはみんなのものでした。経済の発展とともに古い町並みが取り壊されるのを守ろうという趣旨でしたが、保存活動が進化した現在では、まちの資産のいかしかたに変わってきています。これは暮らしの変化によるものです。今、古い町並みは暮らしの変化にいかに対応していくかの問題にさらされています。



◎高齢化：世代交代や後継者問題

親の居住していた家屋を相続する子供たちにとって、昔ながらの家屋は住みづらく、生活していくには難しいと感じており、これは価値観が違うということが原因のようです。

まずは、日本家屋の良さを認識してもらうことが先決だそうです。しかしながら、既に生活の場が都市部にある方々にとっては、実家に帰って来て住み続けるのは難しいのが現状です。そこで二拠点居住という考え方をする方が増えているようです。ウィークデーは、職場に近い都市部で住み、休日に環境の良い実家で暮らすという生活です。

もう一つの取り組みは、居住に利用するのではなくリノベーションをして、宿泊施設や店舗・事務所、今はやりの古民家カフェ等にして賃貸物件にする活用です。八女福島では、NPOが所有者と契約を結び、物件をリノベーションして、入居者にサブリースして賃料をもらうという方法で、古民家を活用するとい

分科会では、奈良町（奈良県）・萩（山口県）・八女福島（福岡県）からの発表があり、共通の問題点は少子高齢化による、伝統的建造物の維持が困難になってきているという点です。

分科会

11月12日 13:30～16:30

- 歴史的な町並みの保存に向けた制度の在り方ー制度の課題と展望ー
制度の活用事例を共有しその在り方を模索するとともに、町並みに対する市民意識の醸成に向けた課題を明らかにします。

コーディネーター 鈴木伸治・横浜国立大学教授

- 町家の継承の考え方ー暮らしの変化に合わせた取り組みの模索ー
町家の改修事例を通じてその取り組み方や課題を明らかにし「何を」保存、継承するのかを探ります。

コーディネーター 浅野聡・三重大学教授

- 生活文化の継承の手法と課題ー「なにを」残すのかー
生活文化の継承に関する取り組みとともに、そうした活動を継続するのにあたっての課題や制度的な支援、市民意識の醸成のあり方を考えます。

コーディネーター 清水重敦・京都工芸繊維大学教授

- 町並み保存活動の続け方ー「どのように」ビジネスを取り込むのかー
町並み保存や地域の活性化に向け、「ビジネス」の多様な手法を取り込むことの効果や問題点を明らかにし、今後の展望について意見交換します。

コーディネーター 阿部大輔・龍谷大学教授

- まちの良さの伝え方ーニューヒーローの思いー
新たな視点でまちづくりを担う若い方等を全国からパネリストに迎え、活動のきっかけや将来の展望、課題を語りあいたいと思います。

コーディネーター 麻生美希・同志社女子大学准教授

う先進的な取り組みをされています。ここで、問題になるのが、入居する方が昔からのコミュニティに溶け込んでいけるかということです。そこでNPOでは入居希望者の面接や事業計画の審査を行ってから入居してもらうマッチングをしてこの問題を解決しています。



奈良町まちづくりシンポジウム

11月13日 10:30～11:45

タイトル「まちの資産のいかしかた～なにを、だれが、どのように～」

全国町並みゼミ奈良大会を機に、奈良町でまちづくり活動に携わっている団体同士が協働する、新たな取り組みが行われています。シンポジウムでは、奈良町での取り組みを振り返りながら、全国の歴史を活かしたまちづくりに精通している西村幸夫先生、長年、奈良女子大学で教鞭をとられ奈良町のまちづくり運動に詳しい増井正哉先生と一緒に、奈良町のまちの資産とは何か、だれが関わり、これからどう活かしていくのかを考えます。ぜひ、皆さんも一緒に歴史ある町のまちづくりについて考えましょう。

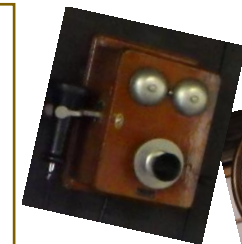
パネリスト：

西村幸夫先生（國學院大学教授、東京大学名誉教授、
NPO 法人全国町並み保存連盟常任理事）

増井正哉先生（大阪くらしの今昔館（大阪市立住まいの
ミュージアム）館長、奈良女子大学・京都
大学名誉教授）

コーディネーター：

倉橋みどりさん（きたまちコンセプト副実行委員長）



◎価値観の変化

山口県萩市では、昭和45年にJR（当時の国鉄）が打ち出したキャンペーン「ディスカバリージャパン」により、古い町並みが脚光を浴びました。そんな中で、最先端のファッションと古い町並みが「anan」や「non-no」といった女性ファッション誌に取り上げられ、若い女性の観光客が急増しました。若い彼女らに見える萩の町並みは、郷愁を誘うものではなく、最新のファッションと同様に新しくてオシャレで、わくわくするものだったのです。

その当時の彼女らも現在では、70歳代になっており萩の観光客も減少傾向にあるようです。時代の流れとともに、価値観は変化します。ノスタルジックという言葉が当てはまるのは、昭和の終わりから平成にかけてという時代になりつつあります。そんな中、観光で潤ってきた萩でも次の世代の感性に訴求できるものは何か、を模索しているのが現状のようです。

ところで、当会が管理している「甚風呂」で観光客の様子を見てみると、なるほどと思う場面がいくつもあります。甚風呂に展示しているものに郷愁を感じておられる世代は50歳代後半以上の方で、若い世代では判らない道具が多くあります。甚風呂のスタッフは、そんな来館者にアニメ「と

なりのトトロ」にでてきた電話や井戸のポンプや柱時計などと説明し理解してもらってきたのですが、公開から33年が経過した今、「となりのトトロ」を知らない世代が増えつつあります。建築物や展示品に郷愁を感じてもらえない世代の感性に、どのようにして、まちの資産を生かして訴えていくかが、全国共通の課題であるとの萩からの発表でした。

今回の全国町並みゼミに参加して、町並みの保存とその資産をいかして次の世代に価値観を継承していく、そのような取り組みを今後模索してゆかねばならない岐路に立たされていることを実感した2日間でした。

